

いわて防災学習ガイド

Iwate Disaster Prevention Education Guidebook

令和8年4月24日現在



いのちを守り 海と大地と共に生きる



三陸防災復興ゾーンプロジェクト

お問い合わせ

(公財) さんりく基金 三陸DMOセンター

☎ 0193-77-5760 ✉ dmocenter@sanriku-fund.jp

〒027-0072 岩手県宮古市五月町1-20 宮古地区合同庁舎 2 階

営業時間 9:00～17:00 土日祝年末年始を除く

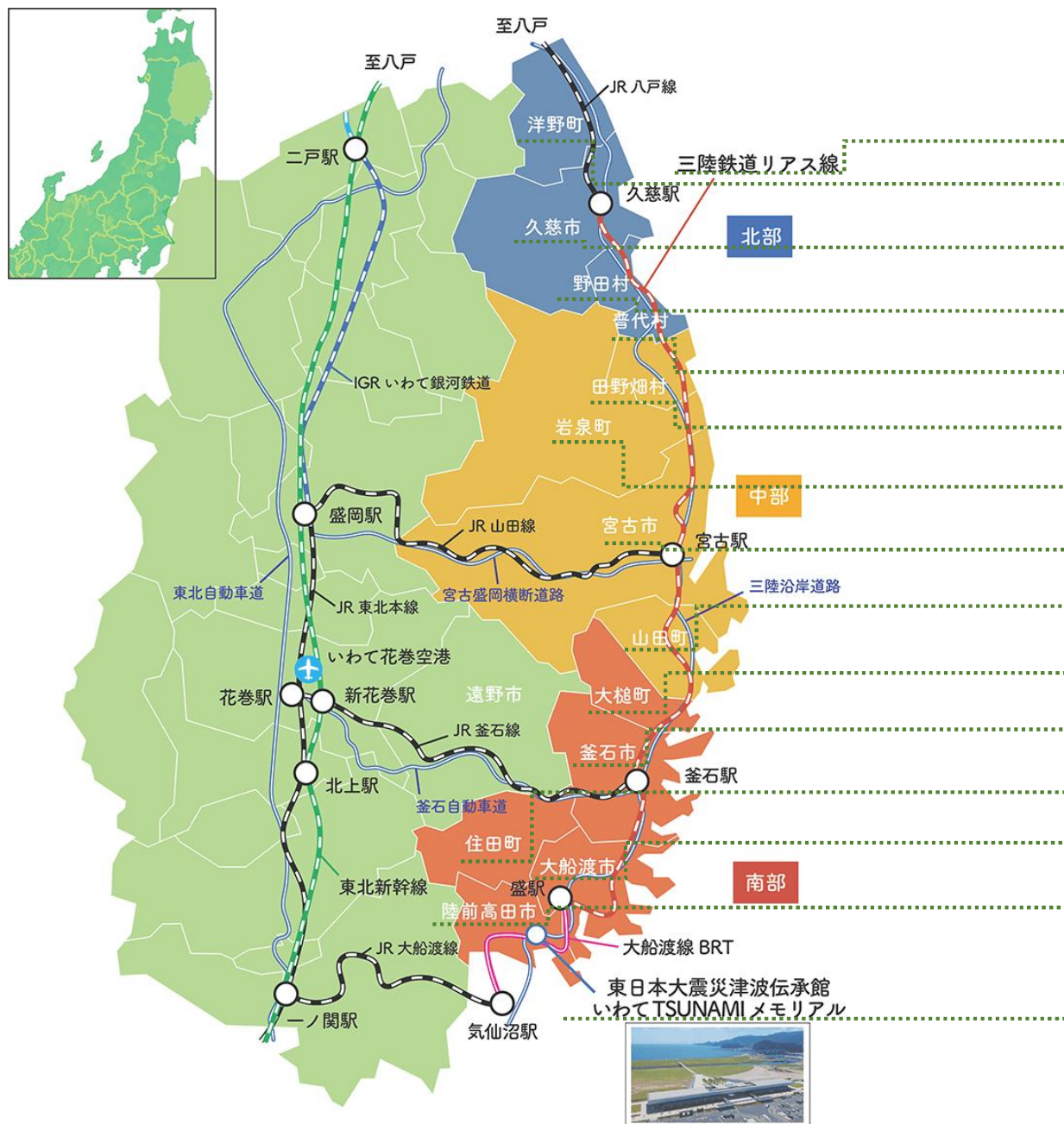
発行

岩手県ふるさと振興部県北・沿岸振興室
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

協力

三陸振興協議会

目次



東日本大震災津波伝承館	P1
関連情報WEBサイト	P2
三陸鉄道震災学習列車	P3
洋野町	P4
久慈市	P5
野田村	P6
普代村	P7
田野畑村	P8
岩泉町	P9
宮古市	P10
山田町	P11
大槌町	P12
釜石市	P13
住田町	P14
大船渡市	P15
陸前高田市	P16
アクセス情報	P17





防災学習・体験学習

【東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）】

東日本大震災津波伝承館は、東日本大震災津波の事実と教訓を後世に伝え、自然災害への備えを促す学びの場を提供するとともに、復興に向けて進む姿と支援への感謝を国内外に発信することを目的として、岩手県が令和元年9月に高田松原津波復興祈念公園内に開設し運営する震災伝承施設です。

4つのゾーンごとに様々な展示を行うとともに、2つのシアターで東日本大震災津波に関する映像を上映しています。

受付時間：9:00～17:00（最終入館16:30）

住所：岩手県陸前高田市気仙町字土手影180番地

お問い合わせ：東日本大震災津波伝承館

Tel：0192-47-4455

Fax：0192-47-4466

Mail：AJ0007@pref.iwate.jp

料金：入館無料

ホームページ：<https://iwate-tsunami-memorial.jp/>

【体験プログラム】

○ 展示解説

館内の展示について、展示内容をより深く理解いただけるように解説員が御案内します。

開催期間：通年

所要時間：30分～60分

※人数及び御希望により解説時間と解説内容を調整します

料金：無料

予約・申込先：要予約（予約期限：2週間前）

【申込先】 東日本大震災津波伝承館

【申込方法】 団体予約申込書を提出（FAX、メール）

【団体予約申込書】

東日本大震災津波伝承館ホームページの「団体予約受付」から様式をダウンロードしてください。

<https://iwate-tsunami-memorial.jp/reservation/>

【TEL】 0192-47-4455

【FAX】 0192-47-4466

【Mail】 AJ0007@pref.iwate.jp





防災学習・体験学習 【三陸鉄道震災学習列車】

三陸鉄道は、被災地の復興のシンボルとして、2019年3月23日、盛駅一久慈駅間163キロの路線を持つ全国で最も長い第三セクター鉄道「リアス線」となりました。被災地の「今」を列車で移動しながら直接「見て」「聞いて」「感じて」いただき、皆さまの防災のお役にたてればと思い「震災学習列車」を運行しております。

震災学習列車の内容

- ・三陸鉄道社員または沿線住民が車内で震災の状況などをご案内します。
- ・被災状況がご覧いただける場所にて一旦停車または徐行運転いたします。
- ・貸切列車（臨時ダイヤ）で運行します。
- ・「震災当時の様子」「今の被災地の状況・現状問題」などを写真を使い説明します。

お問い合わせ・申込み先

三陸鉄道 旅客営業部

電話：0193-71-1170／FAX：0193-71-1200

（受付時間 9：00～17：00 土日祝除く）

※2026年4月から旅客営業部で一括して受付を行うことになりました。

料金（1両・税込、車両代とガイド代を含みます）

一般車両：50,300円

お座敷車両・レトロ車両：57,300円

【岩手県内の方が利用する場合】

利用者補助制度（乗車運賃の一部が補助）をご利用になれます。
詳しくはお問い合わせください。

申込方法

HPより申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえお申込みください。
※お電話での申し込みはできません。必ず申込書のご提出をお願いいたします。
予約状況を確認し、後日運行の可否についてご回答いたします。

【申込開始日】・学生団体：利用日の2年前・一般団体：利用日の1年前



【三陸鉄道震災学習列車HP】



詳細 [震災学習列車パンフレット](#)



東日本大震災津波関連情報（WEBサイト）

【いわて震災伝承施設・団体ガイド 「IWATE/TSUTAERU」】

いわて震災伝承施設・団体ガイド「IWATE/TSUTAERU」は、東日本大震災津波の事実と教訓を未来へ伝えるため、岩手県内の震災伝承施設・団体の概要や体験プログラムなどを一体的に紹介するWEBサイトです。

震災の事実・教訓を「知る」「学ぶ」「考える」ための入り口として、県内外から訪れる方々が、防災・減災やいのちの大切さについて深く学ぶきっかけを提供しています。

サイトでは、各地域の伝承施設や団体の所在地、取組内容などのほか、教育活動での利活用モデルを掲載しており、学校教育や研修、個人の学び、観光と学習を組み合わせた訪問にも活用できます。



ホームページ： <https://www5.pref.iwate.jp/~hp0132/>



【いわて震災津波アーカイブ「希望」】

いわて震災津波アーカイブ「希望」は、東日本大震災津波に関する資料の記録・保存のために作成した岩手県の公式デジタルアーカイブシステムです。

被災の実態や復興の歩み、人々の記憶や想いを後世に残し、震災津波の経験やそこから得られた教訓を未来へと伝承することを目的としています。

サイトでは、震災当時の状況や地域ごとの被害、復興に向けた取組などを多角的に知ることができ、教育現場での防災・復興教育、研究活動の資料としても幅広く活用されています。

「希望」という名称には、震災の記憶を風化させることなく、いのちと暮らしを守る知恵を次の世代へ伝えていきたいという願いが込められています。



ホームページ： <https://iwate-archive.pref.iwate.jp/>





【アピールポイント】

「海と高原のまち」洋野町は、三陸海岸の豊かな自然と高原の景観を持つ海と山の恵みにあふれた岩手県最北端の町です。天然ウニやホヤなどの豊富な海産物が堪能できるほか、潜水技術「南部もぐり」発祥の地と言われ世界的に珍しい潜水専門の課程がある学校があります。内陸部では伝統的な木工技術が息づく工芸品「大野木工」や、冷涼な気候と広大な土地を活かした酪農が盛んです。



【洋野町HP】



【洋野町観光協会HP】

防災学習・体験学習

【防災学習を目的としたツアーの実施】

防災学習を目的としたツアー等について、ご希望内容に応じ洋野町観光協会にてご対応が可能です。人数・日時・料金等は個別にご相談ください。種市防波堤見学案内や、被災したウニ栽培センターの取り組み等の学習ツアーを運行可能です。

開催時期：通年（要相談） **※内容・所要時間・料金等について、**ご相談に応じます。

申込先：一般社団法人洋野町観光協会

大学・企業等の地域での活動例

【東京大学との連携】

洋野町での海洋教育推進を目的として、町内各学校でのプログラム実践や「海洋教育こどもサミットinひろの」の開催について連携し、指導を受けています。

令和元年8月には、学生たちが町営塾での学習指導を行いました。

【岩手大学の被災地研修】

東日本大震災について、防災アドバイザーが学生に向けた講演を行いました。また、被害の大きかった町内八木地区の復旧復興状況について視察を受け入れました。



八木地区メモリアルボード

地域の復興状況について学ぶことができます

★主な学習への協力団体

【一般社団法人洋野町観光協会】

洋野町の観光資源について、様々な案内を行っています。

★主な受入れ先の担当連絡先

【一般社団法人洋野町観光協会】

電話：050-5469-4689

【洋野町企画課】

電話：0194-65-5912 メール：kikaku@town.hirono.iwate.jp

★宿泊場所・予算

【にぎわい創造交流施設「ヒロノット」】 <https://hirono-nigiwai.com>

- ・廃校を活用して整備した交流拠点施設（令和3年11月オープン）
 - ・宿泊設備、コワーキングスペース、会議室等を備え、団体での宿泊研修、ワーケーションなど様々な目的での滞在が可能
 - ・元中学校のノスタルジックな雰囲気の残る施設
- 最大宿泊人数：40人
宿泊費：1泊1名あたり2,500円～4,000円程度



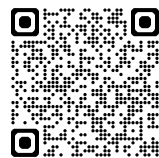
【アピールポイント】

久慈市は、山里海の資源に恵まれた県北沿岸のまちです。日本一を誇る白樺美林や、全国有数の採掘量を誇る琥珀、北限の海に潜る海女など国内外に誇れる魅力に恵まれ、みちのく潮風トレイルや自然体験など豊かな自然を生かした体験型観光が充実しています。

「いわてくじ山形村短角牛」や「久慈育ち琥珀サーモン」などのブランド食材、まめぶなどの郷土料理も魅力の一つです。



【久慈市HP】



【久慈市ふるさと体験学習協会】

防災学習・体験学習

【「もぐらんぴあ“震災伝承”語り部」プログラム】

久慈市地下水族科学館「もぐらんぴあ」は震災で壊滅的な被害を受けましたが、お魚博士「さかなクン」を応援団長とし、様々な人の支援によって平成28年にリニューアルオープンしました。大震災から奇跡的に生き延びたアオウミガメの「かめ吉」がいるトンネル水槽や、北限の海女や南部潜りの技術を間近で見られる久慈の海水槽が目玉です。久慈市で唯一の震災伝承施設として、スタッフが語り部となり震災当時の状況や復興の話を聞くことができ、併設されている国家石油備蓄基地の成り立ちを学べるコーナーもあります。

開催時期：通年

所要時間：1時間

料金：大人750円、高校生・学生550円、小・中学生300円（団体料金あり）

申込先：久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ

語り部プログラム
「かめ吉」トンネル水槽



大学・企業等の地域での活動例

【セイコーウオッチ株式会社】

岩手県とセイコーウオッチ株式会社の包括連携協定を契機として、平庭高原の環境整備活動と、震災学習を実施しています

<https://www.seiko.co.jp/csr/magazine/article/00042.html>

企業	セイコーウオッチ(株)
使用した施設等	地下水族科学館もぐらんぴあ 平庭山荘
受入団体	久慈市

★主な学習への
協力団体

★主な受け入れ先の
担当連絡先

★宿泊施設

【一般社団法人久慈市ふるさと体験学習協会】

体験学習や修学旅行、野外活動、民泊、エコツアーなど、ご要望をお聞きしながら対応します。

電話：0194-75-3005

【久慈市産業経済部商工観光課】

震災学習を含め、市内を様々な視点からご覧いただくためのご提案をいたします。

電話：0194-52-2168 メール：kankou@city.kuji.iwate.jp

【平庭山荘】

- ・日本一の白樺林を有する平庭高原観光の核となる宿泊施設
 - ・広大なブナ林やスキー場、パークゴルフ、トレッキングと自然を体感できる環境
 - ・会議室もありビジネス・グループ研修旅行にも便利
 - ・地元産の新鮮な食材を生かした食事
- 最大宿泊人数：281名 宿泊費：1泊1名あたり4,400円～



【アピールポイント】

野田村は岩手県沿岸北部の小さな農漁村で、三陸海岸では珍しい広い砂浜『十府ヶ浦』や自然豊かな和佐羅比山に囲まれています。

十府ヶ浦は三陸ジオパークに認定され、名産『のだ塩』や荒海ホタテ、わかめなど海の幸が豊富。

古くから塩の道で内陸と交流し、伝統行事『なもみ』も受け継がれる、自然と文化が息づく村です。



【野田村HP】 【野田村観光協会HP】

防災学習・体験学習

【未来の「いのち」へ生かす“時速3km”の震災学習】

東日本大震災による津波被害や復旧・復興に関するスポットを実際に歩きながら、震災被害と復興状況について学習する「防災ウォーク」、震災時の意思決定について学ぶ「クロスロードワークショップ」、発災直後の対応から日常への復帰について時系列で対応を考える「災害シミュレーション」で構成される震災学習プログラムです。自分自身と災害との向き合い方を考える、未来志向の震災学習内容となっています。

開催時期：通年

所要時間：90～240分（目安）

料金：ガイド料は無料（見学先による入館料等がかかる場合あり）

申込先：野田村未来づくり推進課 電話：0194-78-2963※現在、個人のお申込みには対応しておりません。

参考情報：<https://www.vill.noda.iwate.jp/soshiki/miraizukurisuishinka/ijuteijuhan/shinsaidensho/1481.html>

大学・企業等の地域での活動例

【大学カリキュラムでの現地研修（フィールドワーク）、講義】

- ・東日本大震災からの復旧・復興支援（災害ボランティアのほか、村内サテライトキャンパスでセミナーを開催）。
- ・大学では、現地視察インタビューを踏まえた解決策を提案する実践型のワークショップを実施。
- ・「10年後の野田村を他の村では真似できないユニークな村にする」を目標に、連携して講義などを転換。大学教授による村民向けや村内の高校での講義等を実施。
- ・協定により実施した内容を大学でのシンポジウムに参加して報告。
- ・大学院生が本村で実施している震災学習を体験。

大学	大阪大学
使用した施設等	染織工房、国民宿舎えぼし荘
受入団体	野田村役場

★学習成果の発表機会

・大学主催シンポジウムでの発表 ・村内成果発表会 ・広報誌への掲載

★主な受入れ先の担当連絡先

【野田村未来づくり推進課】

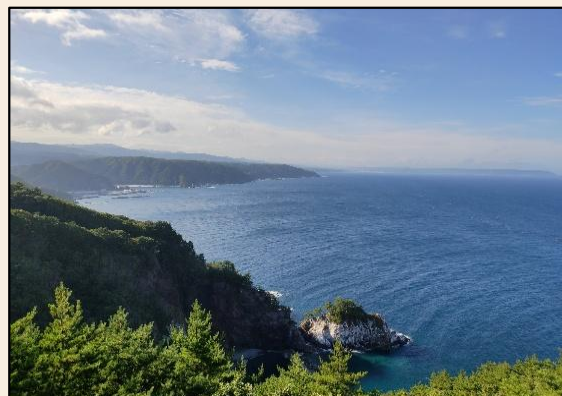
※団体でのお申込みのみ受け付けいたします。

電話：0194-78-2963 メール：mirai_mi@vill.noda.iwate.jp

★宿泊場所・予算

【国民宿舎えぼし荘】 <https://ebosisou.com/>

一部屋1名6,500円～



【アピールポイント】

普代村は北緯40度、岩手県の沿岸北部に位置している県内で一番小さな村で、陸中黒崎灯台や断崖絶壁がちな北山崎など三陸復興国立公園の絶景が魅力です。

漁業・水産養殖業が盛んで、冬の荒波にもまれた養殖昆布は本村にしかない食感を味わうことができます。また、みちのく潮風トレイルや国民宿舎くろさき荘からの太平洋の眺望も人気です。



【普代村HP】

防災学習・体験学習

【防災学習プログラム】

震災遺構や東北一の高さを誇る普代水門の建設経緯や、「津波伝承絵本」を活用したツアーを通じて、移住コーディネーターの声を交えながら震災の教訓を伝えます。震災遺構の現場を肌で感じながら、震災の風化防止や防災意識の高揚、備蓄品の重要性を再確認する貴重な機会として学習することができます。

開催時期：通年

所要時間：70分

料金：教育機関からの震災学習申込の場合は**無料**（観光協会を通じた申込はガイド一人につき15,000円）

申込先：大学等教育プログラムの場合は**普代村政策推進室**

※下記「主な学習への協力団体」等をご覧ください

大学・企業等の地域での活動例

【村づくり支援プログラム】

村内でフィールドワークを行いながら、学生たちが地域との交流を通じて震災の教訓と地域資源を学ぶことで地域課題の解決に向けた提言を行い、村とともに持続可能な地域づくりを検討することを目的とします。

追手門学院大学と普代村は平成27年に連携協定を締結し、これまでに「紙芝居プロジェクト（津波伝承絵本）」、「ふだいFAN Channel（紹介動画作成）」等に取り組んでいます。

<https://www.vill.fudai.iwate.jp/lifescene/omotenashi.html>

（震災学習に関すること）

<https://www.vill.fudai.iwate.jp/lifescene/ehon.html>

（震災絵本等に関すること）

大学	追手門学院大学
使用した施設等 ※宿泊、ワークショップ等で利用	宿泊施設「国民宿舎くろさき荘」 自然体験学習施設
受入団体	普代村政策推進室

★主な学習への協力団体	教育機関からの震災学習申込 →普代村政策推進室	県内及び八戸圏域からの観光申込 →普代村観光協会
	県内外の大学等に向けた震災学習団体へのフィールドワーク実績あり。コーディネーターが対応します。	県内及び八戸圏域の観光客向けに地域振興と防災教育を実施しています。
★主な受入れ先の担当連絡先	【普代村政策推進室】 電話：0194-35-2114 FAX：0194-35-3017 メール： f-seisaku@vill.fudai.iwate.jp	【普代村観光協会】 電話：0194-35-2115 FAX：0194-35-3661 メール： f-kankou@vill.fudai.iwate.jp

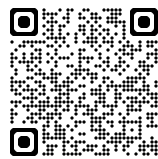


【アピールポイント】

田野畑村は、沿岸北部に位置する人口約2,800人の農山漁村です。沿岸には、高さ200mの断崖美が続く北山崎・鵜の巣断崖といった海成段丘の景勝地があり、外洋の荒波に揉まれて育つワカメや昆布、それらを食べるウニやアワビが特産です。内陸にはなだらかな丘陵地帯が広がり、乳牛やあい鴨の飼育が盛んです。



【田野畑村HP】



【NPO法人体験村・たのはたネットワーク】

防災学習・体験学習

【大津波語り部】

東日本大震災で被災した語り部が、実際の被災地区や遺構を巡りながら自身の経験で得た教訓を伝えるガイドメニューです。

開催時期：通年 所要時間：60分

料 金：2,500円/人（2名～）
団体向け語り部1名15,000円（20名まで）

申 込 先：NPO法人体験村・たのはたネットワーク

参 考：<https://www.vill.tanohata.iwate.jp/kankou/experience/kataribe.html>

補助・助成・支援

【田野畑村教育旅行誘致支援事業補助金】

津波伝承や防災学習を実施する教育旅行において、村を滞在地とする学校や、旅行代理店の方々に旅行経費の助成を行っています。

補助の要件	①（代理店向け）田野畑村に1泊以上宿泊する教育旅行を実施すること ②（学校関係者向け）旅行代理店を介さず①を満たす教育旅行を実施すること ※その他の要件については、詳細欄に記載のWEBページからご確認ください
補助・支援の内容	①（代理店向け）2,000円/人泊を補助 ②（学校関係者向け）貸し切りバス料金の半額を補助
詳細	田野畑村企画観光課 電話：0194-34-2111 https://www.vill.tanohata.iwate.jp/kankou/education/educational-travel.html

★主な学習への受入団体

【NPO法人体験村・たのはたネットワーク】

防災学習・体験学習の受け入れ窓口として、要望に応じた調整対応を行います
電話：0194-37-1211 メール：taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp

★宿泊場所・予算

【自然大学校】

- ・北山崎にほど近い、静かな山林に囲まれた研修宿泊施設
- ・調理室、浴室完備でグループでの活動にも最適

最大宿泊人数：40人
宿泊費：1泊1名あたり3,000円～5,000円程度

【ホテル羅賀荘】

- ・沿岸に立地する村唯一のホテル
- ・教育旅行の受け入れ経験も豊富
- ・グループワーク等に使用可能なホールが隣接

最大宿泊人数：300人
宿泊費：1泊1名あたり8,000円～13,000円程度



【アピールポイント】

岩泉町は、神秘の青と豊かな緑が広がる自然の宝庫です。盛岡市から車や直通バスで約2時間、日本三大鍾乳洞「龍泉洞」では、貴重な鍾乳石と透明度世界屈指の地底湖が生む「ドラゴンブルー」が訪れる人を魅了します。町のブランド品である濃厚な岩泉ヨーグルトや旨味豊かな短角牛など食文化にも恵まれています。早坂高原の散策や三陸海岸の絶景とともに、心と体を満たす体験が楽しめます。



【岩泉町HP】



【岩泉町観光協会HP】

防災学習・体験学習

【震災被災地ガイド】

ガイドと歩きながら、東日本大震災による被災地の現状、過去の津波の歴史が刻まれた石碑などを見学。平成28年台風第10号災害や三陸ジオパークの解説も交え、災害の特性など地球科学的な面からも、防災の大切さや自然の脅威、命の尊さを学びます。

開催時期：通年 ※2週間前までに要予約、内容は要相談

所要時間：1時間程度

料金：1,500円（1名）、800円/人（2～4名）、500円/人（5～10名）、400円/人（11～30名）

申込先：岩泉観光ガイド協会

岩泉ヨーグルト工場見学



【台風第10号災害と地域産業について】

町の特産品である「岩泉ヨーグルト」を製造、販売している岩泉ホールディングス株式会社は、平成28年台風第10号豪雨災害で工場、本社ともに甚大な被害を受けました。町の6次産業の要である「岩泉ヨーグルト」の製造工場にて、社員が被害の様子や復興の道のりなどを説明します。

開催時期：通年 ※受け入れについては要相談 **所要時間：**30分程度

料金：無料 **申込先：**岩泉ホールディングス(株)



小本水門でのガイドの様子

★主な受入れ先の担当連絡先	【岩泉観光ガイド協会】 電話：0194-22-5955（月曜日定休） メール：guide@iwaizumi-kankou.jp 【岩泉ホールディングス株式会社】 電話：0194-32-3008
★宿泊場所・予算	【ホテル龍泉洞愛山】 岩泉町岩泉字松橋1-2 1泊7,700円～ https://www.aizan.co.jp/ 【龍泉洞温泉ホテル「龍のすみか」】 岩泉町岩泉字府金48 1泊6,200円～ https://ryusendo-hotel.com/ 【岩泉CYMBALS】 岩泉町乙茂字大向10-3 https://cymbals-irp.com/ ・グランピング施設、コテージ、ブルートレイン「日本海」、キャンプサイトなどに宿泊可能 ※予約時期や曜日などの需要に応じて、宿泊料金変動する「ダイナミックプライシング」を導入しています。ご希望の日程で、最新の料金を検索してください。 ・ブルートレイン A寝台：1ベッドにつき3,500～4,500円、1両貸切は35,000～38,000円 B寝台：1両貸切 10名まで→21,000～22,000円 11～28名まで→42,000～44,000円



【アピールポイント】

宮古市は本州最東端に位置しており、東は太平洋、西は北上山地に抱かれ、美しい森・清らかな川・豊かな海に包まれて訪れる人を魅了します。宮古トラウトサーモンやワカメなどの海の幸は全国に誇る特産品。東日本大震災から力強く復興し、新しい街並みと活気が広がる中、「三陸鉄道」や国指定名称「浄土ヶ浜」など観光名所も充実。自然、食、歴史が調和する魅力あふれるまちです。



【宮古市HP】



【宮古観光文化交流協会HP】

防災学習・体験学習

【東日本大震災の教訓を伝える】

宮古市田老地区では「学ぶ防災」ガイドを通じて、防災意識の向上を図っています。かつて「万里の長城」と呼ばれた防潮堤に実際に登り、津波発生時の状況、避難の様子、被災後の復興の過程など、震災の記憶を伝えます。また、津波遺構「たろう観光ホテル」の6階で、同じ場所から撮影された実際の津波の映像を見ることができます。

「宮古市災害資料伝承館」では東日本大震災津波以前から繰り返してきた地震と津波などの自然災害の歴史や教訓を伝えることを目的としています。資料展示を無料で見学できるほか、同施設では定期的に防災ワークショップを開催しています。

大学・企業等の地域での活動例

【テーマ：岩手三陸学「まちのフィールドワーク」】

岩手県立大学宮古短期大学の学生が、宮古管内（宮古市・山田町・岩泉町・田野畑村）の理解を深め、「まちのフィールドワーク」を通じて沿岸地域について学ぶことを目的に活動を実施しました。宮古市では、学生たちが津波遺構「たろう観光ホテル」や「田老防潮堤」、三陸ジオパークのジオサイト「三王岩」を訪れ、津波の教訓を学ぶとともに、自然の魅力にも触れました。

詳細：[宮古短期大学部広報誌「みやたんかわらばん」](https://www-myk.iwate-pu.ac.jp/a2fc01a33610a0a5e342e5b26e65e752.pdf)
<https://www-myk.iwate-pu.ac.jp/a2fc01a33610a0a5e342e5b26e65e752.pdf>

訪問大学	岩手県立大学宮古短期大学部
使用した施設等	津波遺構「たろう観光ホテル」
受入団体	一般社団法人宮古観光文化交流会「学ぶ防災」 (岩手県立大学宮古短期大学部協力会 協力事業)



三王岩前 集合写真

★主な学習への協力団体	【一般社団法人宮古観光文化交流協会】 電話：0193-62-3534 メール：info@kankou385.jp
★主な受入れ先の担当連絡先	【宮古市政策推進部政策推進課】 電話：0193-68-9064



【アピールポイント】

山田町は、リアス式海岸に囲まれた漁業のまちです。波が穏やかで美しい景観から「海の十和田湖」とも呼ばれる山田湾では、カキやホタテなどの高品質な海産物が水揚げされています。

震災を乗り越え、人の温かさと自然の恵みが息づくまちとして、訪れる人を温かく迎えています。



【山田町HP】



【山田町観光協会HP】

防災学習・体験学習

【養殖いかだ見学】

ガイドを務める漁師から漁業の現状や震災当時の体験を聞きながら、養殖いかだを見学します。

開催時期：通年(11・12月の繁忙期と年末年始などを除く)

所要時間：約60分

料金：1グループ4名まで12,000円(5名以上の場合、1名につき+3,000円)

申込先：(一社)山田町観光協会

【震災ガイド&まち歩き】

町中心部で、ガイドが自身の震災経験や新しいまちづくりなどを語りながら案内します。

開催時期：通年

所要時間：60分～ご希望の時間

料金：ガイド一人あたり5,000円/1時間

申込先：(一社)山田町観光協会

大学・企業等の地域での活動例

【テーマ：だれ一人取り残さない学びの支援と新しい学びの形】

山田町は、児童生徒一人ひとりに寄り添った学びの定着支援を重視し、大学連携による個別支援や教員研修の充実を図っています。

連携大学の学生によるオンライン支援での継続的な学習サポートや、同大附属小中学校の授業公開へ山田町の教員が遠隔参加することにより、地理的制約を超えた教育の質向上を図っています。さらに町内の外国人児童生徒には地元大学と協力し、日本語指導をオンラインで提供。誰一人取り残さない学びを目指し、地域と大学が一体となった教育支援を推進しています。

訪問大学	東京学芸大学、尚絅学院大学、岩手大学
使用した施設等	児童生徒の自宅、各学校特別教室
受入団体	山田町教育委員会

★主な学習への協力先 ★主な受入れ先の担当連絡先	【一般社団法人山田町観光協会】 https://www.yamada-kankou.jp/plan/plan-1677/ 電話：0193-65-7901
★宿泊場所・予算	宿泊施設「船越家族旅行村ケビンハウス」 https://www.town.yamada.iwate.jp/docs/146.html ケビンハウス(全9棟)1泊11,000円4人まで、超過人数1人につき1泊1,100円(小学生以上は2人まで)最大定員6人



【アピールポイント】

大槌町は、リアス式海岸の雄大な自然に囲まれたまちです。冷たく清らかな大槌の環境で大切に育てられる「岩手大槌サーモン」は、生で安心して楽しめる上品な味わいで知られています。

町域は三陸国立公園内に位置し、自然と調和した観光資源が豊富です。復興からの歩みもまた、未来へ向かう大槌町の魅力となっています。



【大槌町HP】



【大槌町観光
交流協会HP】

防災学習・体験学習

【町内フィールドワーク（震災語り部）】

問いを通して震災を“自分ごと”として捉える学び
語り部ガイドの案内で町内を歩き、当時の状況や人々の判断、避難の様子について話を聞きます。実際の避難経路も辿り、「自分ならどうするか？」を問い、考える機会を作ります。

開催時期：通年

所要時間：90～120分

料金：1～5名 5,000円/団体 6名以上 1,000円/人

申込先：（一社）おらが大槌夢広場

【決断のワークショップ】

“正解の無い問い”に向き合う

被災時の実話をもとに、町民が直面した「正解の無い課題」に対して、当事者として“決断”するワークショップ。アウトプットの時間を通し、感じたことを記憶に定着させます。

開催時期：通年

所要時間：90～120分

料金：5,500円/人

申込先：（一社）おらが大槌夢広場

大学・企業等の地域での活動例

【フィールドワークを通した震災伝承】

青森公立大学が作成した伝承マップを参考に安渡地区を歩き、ガイド役である住民の震災当時の経験談を聞きながら、東日本大震災当時のことやそこから得られた教訓について学ぶ活動です。

詳細 <https://www.town.otsuchi.iwate.jp/gyosei/docs/453236.html>

訪問大学	青森公立大学
使用した施設等	大槌町中央公民館 安渡分館
受入団体	安渡町内会

【新たな資源開発】

金沢地域における産金の歴史講演とワークショップを通して、新たな観光資源の開発を考える活動です。

訪問大学	名城大学 経営学部・経済学部
使用した施設等	大槌町中央公民館 安渡分館
受入団体	金沢地域住民

★主な学習への協力団体
★主な受入れ先の担当連絡先

【一般社団法人大槌町観光交流協会】観光交流に関する全般について

<https://otsuchi-ta.com/>

電話：0193-42-5121 メール：info@otsuchi-ta.com

【一般社団法人おらが大槌夢広場】体験できる防災学習について

<http://www.oraga-otsuchi.jp/>

電話：080-8209-2330 メール：mioinusa@gmail.com

★補助・助成・支援

令和7年度大槌町合宿・学習旅行補助事業（令和8年度実施未定）

【お問い合わせ先】一般社団法人 大槌町観光交流協会

【詳細】 <https://otsuchi-ta.com/event-info/?p=10026>



【アピールポイント】

釜石市は三陸漁場を背景に近代製鉄発祥の地として発展してきました。2015年度に「オープンシティ釜石」を掲げ、活動人口とつながり人口を軸にビジネス創出、人材育成、地域づくりを推進しています。さらにラグビーワールドカップ2019で得た国内外のつながりを活かし、一人ひとりと地域の可能性を広げ、希望が連鎖する活力あるまちづくりを進めています。



【釜石市HP】



【(株)かまいしDMC HP】

防災学習・体験学習

【現地体験プログラム】

鵜住居小学校・釜石東中学校の児童生徒が当時避難した避難路を実際に歩いたり、当時校舎があった場所である釜石鵜住居復興スタジアムを見学することにより、当日の出来事を肌で感じられる内容となっています。

開催時期：通年

所要時間：1時間半コースあるいは2時間半コース

料金：11,000円～（プログラムによって異なります）

申込先：いのちをつなぐ未来館

大学・企業等の地域での活動例

【海と希望の学園祭 in kamaishi】

釜石市は、大気海洋研究所・社会科学研究所をはじめとした、東京大学の複数の研究機関と連携協力を進めています。これらの連携をもとに、地域社会の発展、将来を担う人材育成、学術振興を目的とし、相互の発展を目指して人的・知的資源の交流イベントを行っています。

詳細：「海と希望の学園祭in kamaishi」を開催します！

<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2025110500033/>

訪問大学：東京大学

受入団体：釜石市

【釜石オープン・フィールド・ラボ】

地域と企業が共同して学びあうための実践的なフィールドラボです。震災復興を経験した釜石全体を「学びの場」として活用し、企業の人材育成や地域課題の解決に取り組みます。

<https://www.workcation.visitkamaishi.jp/>

訪問企業：日鉄興和不動産、オカムラ

受入団体：(株)かまいしDMC



【学生視点の観光提案】

東海大学観光学部・遠藤ゼミの学生が「御箱崎の宿」に滞在し、地域住民との交流や取材を通じて、箱崎半島・御箱崎の宿の魅力と課題を見つめ直し、学生の視点からプロモーションの提案を行いました。

訪問大学：東海大学

受入団体：(株)かまいしDMC

★主な学習への協力団体	【株式会社かまいしDMC】 【いのちをつなぐ未来館】	https://kamaishi-dmc.com/ https://unosumai-tomosu.jp/unosimai-tomosu/
★主な受入れ先の担当連絡先	電話：0193-27-5260（株式会社かまいしDMC） 0193-27-5666（いのちをつなぐ未来館）	
★補助・助成・支援	【補助額】 交通費・宿泊費の1/2以内。（上限15,000円/人） 【要件】 (1) インターンシップ、(2) 地域活性化活動、(3) ゼミ合宿・ゼミ視察活動、(4) 地域交流活動、のいずれかを行う場合 【詳細】 釜石市総務企画部オープンシティ・プロモーション室 電話：0193-27-8463 https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2024020600031/	

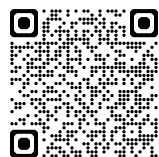


【アピールポイント】

住田町は、面積の約90%を森林が占める林業が盛んな町です。特産品では清流きらめく緑豊かな環境で育まれたブランドの鶏肉や豚肉が好評を博しているほか、観光地では日本最大級の洞内滝を誇る「滝観洞」が人気を集めています。



【住田町HP】



【一般社団法人
邑サポート】

防災学習・体験学習

【仕事と学び複合施設「イコウェルすみた」展示棟】

震災当時に建設した木造仮設住宅を再現。住田町が実施した被災地への後方支援活動や仮設住宅団地形成後のコミュニティ支援の解説とともに見学することができる。

開催時期：通年

所要時間（目安）：30分～1時間

料金：5,500円／団体（～10名まで。11名以上の場合は1,100円／人を加算）

申込先：一般社団法人邑サポート

参考情報：<https://www.icowell-sumita.com/>

大学・企業等の地域での活動例

【(株)岩手日報社のインターンシップ生に対する震災学習フィールドの提供】

(株)岩手日報社主催のインターンシップの一環として、県内外の大学生が記事作成の実践的ノウハウを学ぶため、東日本大震災関連施設の取材を目的に当町のイコウェルすみたを訪問した。併せて陸前高田市の関連施設も訪問し、後方支援地と被災地の両面から震災を学ぶ機会となった。

<https://www.icowell-sumita.com/news/iwate-np-internship-202508>

使用した施設等	イコウェルすみた
受入団体	株式会社岩手日報

★主な学習への協力団体

【一般社団法人邑サポート】

「イコウェルすみた」において、東日本大震災発災時に住田町が実施した被災地への後方支援活動や仮設住宅団地形成後のコミュニティ支援の解説ガイドを行います。

★主な受入れ先の担当連絡先

【一般社団法人邑サポート】

電話：090-9335-4258（代表携帯番号）

【住田町企画財政課】

電話：0192-46-2114

★宿泊場所・予算

【住民交流拠点施設「まち家世田米駅」】

<http://machiya-sumita.iwate.jp/>

中心部のにぎわい創出を目的に、100年以上の歴史ある建物を改修して整備した、コミュニティカフェやレストランを備える多世代交流施設で、簡易宿泊所としても利用可能です。

宿泊可能人数：1日1組（最大10人）まで

施設の特徴：会議や研修、イベントなどに利用できるスペースがあります。

宿泊費：1泊1名あたり5,500円/泊（学生3,300円）※2泊目以降1,100円割引

電話番号：0192-22-7808



【アピールポイント】

大船渡市は、三陸リアス海岸の碁石海岸や五葉山など豊かな自然景観と温暖な気候に恵まれたまちです。新鮮な海産物を中心とした食文化や、復興で整備された港湾・物流基盤、漁業や窯業などの伝統産業が地域の魅力を支えています。

観光・自然体験・食の楽しみが揃い、フィールドワークや地域連携の学びの場としても魅力的なまちです。



【大船渡市HP】

防災学習・体験学習

【大船渡市立博物館】

大船渡市防災学習ネットワークの構成施設（津波伝承施設）の一つで、館内では、東日本大震災津波の映像を上映するほか、常設展示コーナーでは、地震・津波発生のメカニズムに関するパネル展示を行っています。（学芸員解説可）

開催時期：通年

所要時間：約40分

料金：入館料300円

申込先：大船渡市立博物館

【大船渡市防災学習館】

東日本大震災時の避難所をそのまま残し、津波被害の記憶や教訓を伝承する施設です。洪水・土砂災害や林野火災の対応教訓も紹介し、展示を通じて備えの重要性を学べる施設として視察を受け入れています。

開催時期：通年

所要時間：60～90分

料金：無料

申込先：赤崎地区振興協議会（事前予約制）

※林野火災に係る視察の申込先→大船渡市防災管理室

大学・企業等の地域での活動例

【相模女子大学との連携】

復興まちづくり、地域の魅力発信及び新たな魅力の創造等について、学生と地域住民との交流による地域活性化等の取組活動を展開しています。地域課題への学生の理解を深めるとともに、市民の活動活性化にもつながっています。

使用した施設等	甫嶺復興交流推進センター
受入団体	甫嶺地域女性部

【立命館大学との連携】

地域の伝統的な祭りの運営補助を行います。住民との交流や、復興まちづくり関連施設の見学を通じ、震災に対する人々の思いや復興支援、地域活性化の意義を学び、学生が主体的な気づきを得るとともに、地域の活性化にもつながっています。

参考：[立命館大学との連携](#) | [大船渡市ホームページ](#)

受入団体	市内盛地区
------	-------

★主な学習への協力団体

【赤崎地区振興協議会】大船渡市防災学習館の管理運営・館内ガイド業務を実施

★主な受入れ先の担当連絡先

【大船渡市立博物館】 電話：0192-29-2161

【大船渡市防災学習館】 赤崎地区振興協議会 電話：0192-22-9833（赤崎地区公民館内）
大船渡市総務部危機防災対策課 電話：0192-27-3111（内線251）

【大学連携】 大船渡市企画政策部企画調整課 電話：0192-27-3111（内線229）

★補助・助成・支援

市との連携協定締結を条件とし、協定に基づき市内で行う事業について補助対象経費の2分の1に相当する額までを補助する。

（市と大学間の往復移動費補助金は一人当たり1万円が上限）

【お問い合わせ先】大船渡市企画政策部企画調整課 電話：0192-27-3111（内線229） 1 5



陸前高田市

りくぜんたかたし



【アピールポイント】

陸前高田市は、夏は海風が心地よく冬の積雪も少ない、年間を通して過ごしやすいまちです。カキやホタテの海産物をはじめ、ブランド米「たかたのゆめ」、海の見えるりんご畑で作る米崎りんごが有名です。

その他にも、震災遺構「奇跡の一本松」や東日本大震災津波伝承館から、震災の教訓を学ぶことができるまちです。



【陸前高田市HP】 【陸前高田市観光物産協会HP】

防災学習・体験学習

【3.11仮設住宅体験館】

実際に使われた応急仮設住宅を活用した研修施設です。間取り、家族構成も様々に再現された部屋で、当時の暮らしを追体験し「今から自分にできること」を考えます。

見学と宿泊研修の他、震災の語り部も対応します。

開催時期：通年（年末年始除く）

所要時間：①見学のみ→約15分

②語り部から聞く→約90分

③宿泊研修→泊数に応じて

料金：①無料

②8,000円（～9人）、10,000円（10～19人）、15,000円（20～30人）、31名以上要相談

③11,000円（1DKを一人で利用した場合）

申込先：一般社団法人トナリノ

電話 080-2830-8412（受付9:00～17:00）

メール info@311kasettsu.com

3.11仮設住宅体験館 <https://311kasettsu.com/>

【陸前高田震災語り部ガイド】

震災の記憶を伝えるとともに、陸前高田の「今」をご案内いたします。

案内区域：①奇跡の一本松を高台から

②中心市街地

③旧市街地（高田・気仙町）など

開催時期：通年（9:00～日没まで）

所要時間：約90分

料金：5,000円（1～9人）、7,000円（10～29人）、9,000円（30人～） ※30分増すごとに1,000円加算

申込先：陸前高田市観光物産協会

電話 0192-54-5011（受付8:30～17:30）

FAX 0192-54-5013

震災語り部 <https://takanavi.org/guide/>

大学・企業等の地域での活動例

【林業体験 陸前高田の森に学ぶ「立教の森」プログラム】

平成15年から続く立教大学の夏季正課外教育プログラムの林業体験。近年では、林業体験に加え、震災遺構、仮設住宅体験施設、東日本大震災津波伝承館での防災学習の時間を設けるなど、内容の充実が図られています。

参考：立教ポータル「林業体験」

https://portal.rikkyo.ac.jp/student_affairs/backup/program/forestry

訪問大学	立教大学
使用した施設等	ホロタイの郷「炭の家」
受入団体	生出地区コミュニティ推進協議会

★主な受入れ先の
担当連絡先

【一般社団法人陸前高田市観光物産協会】（語り部ガイド窓口）

市内観光資源や震災遺構について、ガイド付きで説明や資料提供を行っています。

電話：0192-29-2161 メール：rikutakata-kankou@crest.ocn.ne.jp

★補助・助成・支援

大学生等関係人口創出補助金

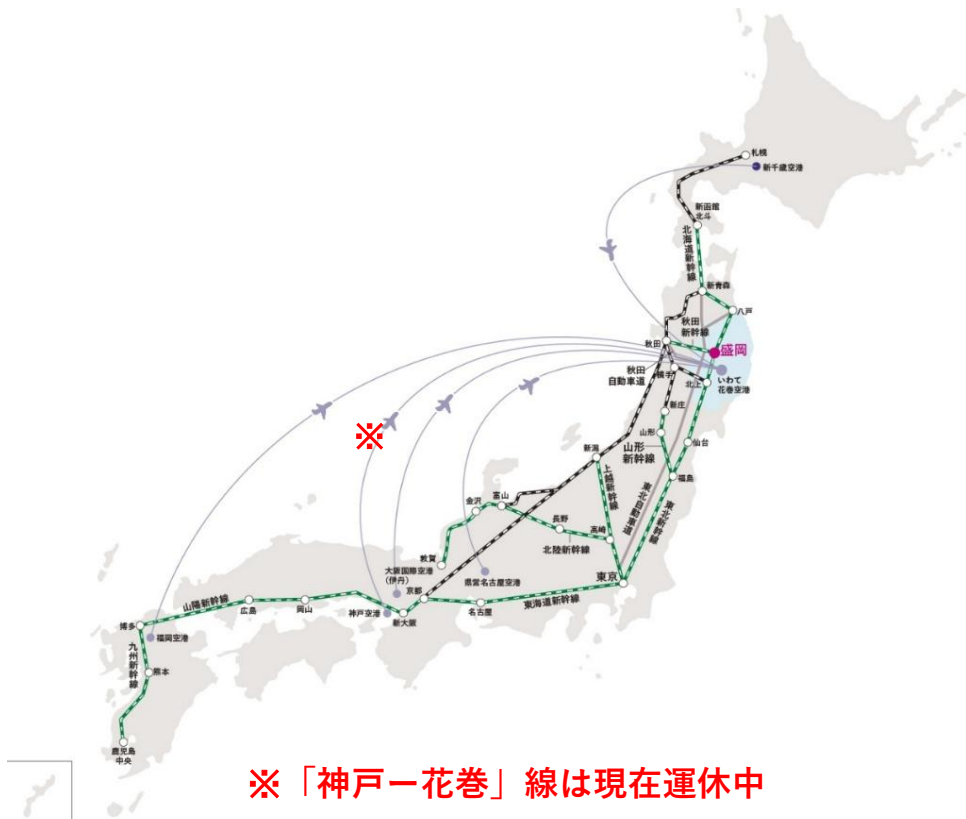
大学生の市内での宿泊を伴う地域課題の解決に資する活動などに対し、1人につき最大5万6千円を補助する。

【お問い合わせフォーム】

<https://logoform.jp/form/Wb7W/1395740>（陸前高田市商工交流部交流推進課）

条件や詳細はこちら：[大学生等関係人口創出事業補助金／陸前高田市ホームページ](#)

アクセス情報



※「神戸－花巻」線は現在運休中

主な都市からのアクセス

- 【仙台発】**
仙台駅 → 盛岡駅
(東北新幹線 約40分)
- 【東京発】**
東京駅 → 盛岡駅
(東北新幹線 約2時間10分)
- 【大阪発】**
伊丹空港 → いわて花巻空港
(飛行機 (JAL) 約1時間20分)
- 【愛知発】**
小牧空港 → いわて花巻空港
(飛行機 (JAL・FDA) 約1時間10分)
- 【福岡発】**
福岡空港 → いわて花巻空港
(飛行機 (JAL・FDA) 約1時間55分)

沿岸部へのアクセス

鉄道

盛岡駅	J R 山田線	宮古駅
	約2時間20分	
新花巻駅	J R 釜石線	釜石駅
	約1時間30分 (快速利用)	
一ノ関駅	J R 大船渡線	気仙沼駅
	約1時間25分	
	J R 大船渡線 (BRT)	大船渡駅
	約1時間10分	

バス

盛岡駅	①白樺号 (1日5便) ②久慈こはく号 (1日1便)	久慈駅
	①約2時間45分 ②約2時間5分	
盛岡	106 特急・急行 (1日10～12便)	宮古駅
	約1時間40分 (特急) 約2時間15分 (急行)	
盛岡	大船渡・盛岡線 (1日2便)	大船渡駅
	約2時間15分	

その他の沿岸各市町村への
アクセス情報はこちら↓

